

令和 6 年度 静岡県立裾野高校第 2 回学校運営協議会 議事録

出席者

学校運営協議会委員

委員長 高橋智浩委員（裾野市社会福祉協議会）

副委員長 小田圭介委員（総務省地域力創造アドバイザー）

委員

山本 睦委員（常葉大学保育学部教授） 志田忠弘委員（NPO 法人理事） 杉村千鶴委員（PTA 会長）

学校側

田代校長、大石副校長、芹沢教頭、相馬事務長、川口総務図書課長、塩谷教務研修課長、野村生徒課長、岡部総合学科キャリア広報推進室長

1 校長 あいさつ 田代直彦校長

2 議事

- (1) 令和 6 年度教育活動計画の中間報告について 重点目標の進捗状況、2 学期以降の予定、今後の検討課題と具体的な方向性を報告した。

総務図書課 PTA 活動 生徒募集定員減に伴い支部の統合、活動の精選の検討が必要。

図書の貸し出しについて 図書委員が昼食を摂れないことから昼当番の廃止。

学級文庫の利用、図書館利用の呼びかけをして図書貸し出し数を増やしたい。

9 月・12 月に防災訓練を実施予定。

地域防災避難所になっているため、体育館の空調施設の整備が必要である。

教務課 令和 7 年度の教育課程案を作成するため、教育課程検討委員会を開き、教育課程案を作成し 11 月に県へ提出する。

昨年度より欠席・遅刻・早退の数が減少。要因を掴み、今後も継続する。

生徒課 盗難の撲滅：貴重品の管理の徹底を行う。生徒の安全安心を確保するために昇降口及び各フロア階段口にカメラが設置できないか。

ネット依存トラブル対策プログラムを利用しネットトラブル教室を実施した。

総合学科キャリア広報推進室

総合的学習の時間が総合的探究の時間になり、本校は学習指導要領に沿った教育活動を行っている。学校の教育に準ずるカリキュラムポリシーは、地域のつながりが大きなウエイトを占めている。1 年生では地域の人材とより多くかわり、3 年生では 20 年後の未来と自己探究を行っている。20 年後の世の中を予測するために地域人材と交流するが、学校だけでは実施できない。高校生になると ICT 端末利用は教員より長けており、教員が主となって指導することには無理があることから、地域人材を積極的に活用していきたい。

広報活動では、毎月学校新聞を発行している。市全域に紙で回覧板配布していたが、LINE によるデジタル広報を利用するなど見直しを進める。

進路課 3 年生 113 人のうち 50 人が就職希望である。

保健相談課 重点項目は 6 点あるが、今年度新規にスクールカウンセラーなど外部機関を含めたチーム対応の継続を加えた。

## (2) 質疑

- 山本委員 新聞の学校向けデジタルサービスの利用はどうか。
- 川口課長 費用面から難しい。
- (NIE で、本校は 2021 年に利用していたが、利用が少なく費用が掛かることから利用をやめた。代わりに C-ラーニングを導入した。)
- 山本委員 一人一台タブレットが導入されているので、図書館内で調べ学習できるようにならないか。少なくとも、図書の検索 PC を設置したらどうか。
- 20 年後の未来を学んで考えさせる場合、漠然としたものになってしまわないか。事業の内容について教えて欲しい。
- 岡部室長 学校の教員だけでの実施は無理だと考えている。シンクタンクの総合研究所の方に 20 年後の社会について説明してもらっている。各分野の経営者や管理職を招いて生徒と一緒に考えている活動である。高校生だからできる発想もあり、漠然としたものにはならない。
- 志田委員 欠席・遅刻者数の減少について要因はあるか。
- 塩谷課長 1 年生の欠席数は、最も少ない。2 年生は昨年より増えている。3 年生は進路決定の意識が高いためだと考えている。要因は分からない。
- 志田委員 学校に防犯カメラの設置をしたいと考えているのか。
- 野村課長 高校で設置しているところはない。すべての場所ではなく、昇降口や各階段口に設置できないかと考えている。小学校では監視ではなく生徒を守るという観点から設置している学校もある。
- 志田委員 地域住民としては学校を訪れたいと考えているので、カメラがあると逆に学校に訪れやすい。
- 杉村委員 ネット依存トラブル対策プログラムは、保護者と子供の意識の差が大きい。ネット利用時間が改善するための指導に、生かされていない。スマートフォンの使い方を指導して欲しい。
- 野村課長 生徒に何度も話をして指導していくしかない。子どもを守るという観点から伝えているが、家庭の協力が必要である。どうやって家庭を巻き込んでゆけるかであるが、PTA で決めていただいた【夜 10 時以降は使わない】ルールを守るよう指導させてもらっている。
- 山本委員 大学生でもクレジットの関係では、社会生活に適應できていない。
- 裾野地区はマルチ商法による被害が多い。危機回避教育によりリスク管理をする必要がある。
- 野村課長 高校では「消費者講座」を開催しているが、個人のカードを持っていない状態で生徒は聞いているので、イメージするのは難しい。
- 山本委員 大学ではオリエンテーションで指導しているが、大学生は学校文化から解き放たれた感がある。
- 小田委員 家庭の問題であるが、家庭での指導は無理。法で縛らないかぎり難しいのではないか。
- それぞれで、機会がある度に指導していくしかない。
- 山本委員 教育の原理原則は、不公平をなくすために教育があると思う。社会で決めたことを、次の世代に伝えていくが、社会の変化により今までやってきたことがひっくり返される体験もして欲しい。大学入試も変化しているので保護者も知って欲しい。今までとは違う基準になっていることを学校の先生方にも知って欲しい。
- 9 月 23 日（月 秋分の日）の振替休日）に裾野市生涯学習センターにて『アクティブラーニングを体験しよう！』を行うので、先生方にお知らせください。
- 高橋委員長 日本全国民がネット依存している。SNS の被害に遭いやすく、若者は「自己破産してしまえばいい」と考えているが、自己破産が認定されるまでの過程でお金が掛かることを知らない。借りたものは返すことは、学校ではなく、家庭や社会・地域の問題である。SNS に一度出たら、一生消えない。終わったと思ったことが、蒸し返されることがある。

別件であるが、無届けアルバイトが多いことについて説明して欲しい。

野村課長 家庭からの申請があれば許可をしているが、書類提出を面倒がり申請しないため指導を受けている。

山本委員 奨学金を利用してはどうか。

高橋委員長 奨学金では、月々の金額が少ない。

相馬事務長 企業からの奨学金は、学習成績も条件にある。給付型、貸与型がある。

高橋委員長 学校支援機構の基準が緩まり、給付額が増えている。社会福祉協議会にも無利子型の奨学金がある。

小田委員 アルバイトするかは、家庭の考え方である。個々の生徒に合った個別最適なアルバイトをするためには保護者がどれだけ関与するかが大事。お金のためにシフトに取り込まれて、何のために働いているのかが分からなくなるのは意味がない。一方、アルバイトを無制限に許可すると部活動が成り立たなくなることは理解できる。

### 3 意見交換

山本委員 高大接続 職業理解研修で大学のオープンキャンパスの際、面談で「進路指導で進学を勧められたから」と答える高校生がいるが、アドミッションポリシーを見てから来させて欲しい。生活上のリーダーシップを良い意味で見れるように、高校で指導して欲しい。大学で何をしたいのか言えない。

小田委員 スクールポリシーに則していない学生を入学させているからではないか。

高橋委員長 それで入学すると学生は変な勘違いをしてしまう。挫折を知らないで、何かでシュンとしてしまう。自分はできていると思ってしまう。成功している人の話しか聞かないからではないか。

山本委員 競争力が足らず、経験したことでしか考えられない。これからのことを考えるとき、皆で考えるのではなく、他の人とは違う未来を考えるべきではないか。

高橋委員長 企業でも人手不足などで、不合格にできない状況がある。無理に合格させると、そこで終わってしまう。選抜している余裕がない。不合格にしにくい時代に入っている。失敗を失敗だと感じていない人もおり、捉え方が以前と違ってきている。

杉村委員 経済的に困難な理由から、一人一台端末を学校が貸し出している人もいるのか。

相馬事務長 県から学校に貸与されているものを希望する生徒に貸し出している。

杉村委員 情報端末の値段が高くなってきているので、買わなくても貸し出すことを推進して欲しい。

### 4 その他（諸連絡）

ア 次回、第3回学校運営協議会について 日程について

イ 創立120周年記念式典への出席依頼について